

学長定例記者会見要項

日 時： 平成30年10月4日（木） 11：00～11：45

場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

発表事項

1. ダブル・ディグリー・プログラムに関する協定を締結
～ドイツ・ハノーヴァー大学と 交流の新たなステップへ～
2. 本学学生が自転車ロードレース大会で優勝
～「第13回裏磐梯スカイバレーヒルクライム大会」アスリートクラス～
3. 実践！大学祭で新鮮野菜の直接販売“舟形マルシェ”
～舟形町のために山大生ができること～
4. 学生がキラリと光る地元企業の魅力を取材・発信
～村山地域の製造業の魅力を伝えるFacebook発信プロジェクト第2弾～

お知らせ

1. 「理科マイスター」教育プログラム（講座）を実施します
2. 「西洋なしフェスティバル」を小白川キャンパスで初開催
～上山市の果樹ブランド活性化目指し 理学部とコラボ～
3. チェリスト・指揮者の鈴木秀美氏による学生の公開レッスンを行います
～山形大学と山形交響楽団の連携による音楽教育推進事業～
4. フードリテラシーシンポジウム第2弾を開催します
～11月17日（土）「世界の食育の先進事例に学ぶ」～
5. 「数理科学」をテーマに公開講座を開催します
6. 農学紹介講座「農学の夕べ」を開催します
7. 「山形大学SCITA(サイタ)センター10周年記念行事」を開催
8. やまがた夜話の開催について

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：平成30年10月18日（木） 11：00～11：45

場 所：法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

学長定例記者会見（10月4日）発表者

1. **ダブル・ディグリー・プログラムに関する協定を締結**
～ドイツ・ハノーヴァー大学と 交流の新たなステップへ～

理事・副学長

やすだ ひろのり
安田 弘法

2. **本学学生が自転車ロードレース大会で優勝**
～「第13回裏磐梯スカイバレーヒルクライム大会」アスリートクラス～

大学院理工学研究科博士前期課程 1年

かせ しゅんすけ
嘉瀬 峻介

3. **実践！大学祭で新鮮野菜の直接販売“舟形マルシェ”**
～舟形町のために山大生ができること～

農学部 1年

てづか ともき
手塚 友輝

//

いくた さとし
生田 聡

4. **学生がキラリと光る地元企業の魅力を取材・発信**
～村山地域の製造業の魅力を伝える Facebook 発信プロジェクト第2弾～

学術研究院准教授（人文社会科学部担当）

よしわら もとこ
吉原 元子

山形県村山総合支庁産業経済部地域産業経済課課長

かとう やすひろ
加藤 泰弘

平成30年（2018年）10月4日

ダブル・ディグリー・プログラムに関する協定を締結 ～ドイツ・ハノーヴァー大学と 交流の新たなステップへ～

【本件のポイント】

- 山形大学とドイツ・ハノーヴァー大学は、ダブル・ディグリー・プログラム^{*}に関する協定を、2018年9月17日に締結。
- 山形大学では初のダブル・ディグリー・プログラムとなる。
- プログラムの修了要件を満たした学生は両大学の修士の学位を取得できる。



【概要】

山形大学とドイツ・ハノーヴァー大学は、ダブル・ディグリー・プログラムに関する協定を、2018年9月17日に締結しました。山形大学大学院農学研究科とドイツ・ハノーヴァー大学自然科学部にそれぞれ最低限2学期在籍し、ダブル・ディグリー・プログラムの修了要件を満たした学生には、修士（農学）とMaster of Scienceの両方の学位が授与されます。

ダブル・ディグリー・プログラム名は”Management of Land and Water Resources”で、2019年10月から学生の受入を開始します。

【背景】

山形大学とドイツ・ハノーヴァー大学は、2012年3月に山形大学農学部とハノーヴァー大学自然科学部の学部間交流協定を、2014年5月に大学間交流協定を締結し、学生交流や研究者交流をはじめとした交流を深めてきました。特に、2013年以降は、共同でサマースクールやウィンタースクールを毎年実施するなど学生交流の実績を重ね、その結果、交流に参加した複数のドイツ人学生が現在、山形大学大学院で正規生として学んでいます。そのような交流を行う中で、両大学の関係をさらに発展させていくために、新たなステップとして、今回のダブル・ディグリー・プログラムが実現しました。

【実施内容】

2019年10月から、両大学から毎年最大2名ずつを受け入れます。プログラムの実施にあたっては、英語を公式言語とします。山形大学農学部ではロペス・ラリー教授が、ハノーヴァー大学自然科学部ではジェラルド・クント教授がコーディネーターとなり、ダブル・ディグリー・プログラムを実施します。

※ダブル・ディグリー・プログラム：我が国と外国の大学が、教育課程の実施や単位互換等について協議し、双方の大学がそれぞれ学位を授与するプログラム。（文部科学省HPより）

お問い合わせ

鶴岡キャンパス事務室（学務担当）

TEL 0235-28-2808 メール nogaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

学生の活躍

平成30年（2018年）10月4日

本学学生が自転車ロードレース大会で優勝

～「第13回裏磐梯スカイバレーヒルクライム大会」アスリートクラス～

【本件のポイント】

- 「第13回裏磐梯スカイバレーヒルクライム」で、大学院理工学研究科博士前期課程1年の嘉瀬峻介（かせ しゅんすけ）さんが優勝しました。
- 大学院では企業との共同研究テーマにも取り組むなど、研究の傍ら実業団チームにも所属し、数多くのレースに出場しています。



【概要】

平成30年（2018年）9月9日（日）に開催された自転車ロードレース「第13回裏磐梯スカイバレーヒルクライム」（福島民報社など主催）で、本学の嘉瀬峻介さん（大学院理工学研究科博士前期課程1年）が優勝しました。福島県北塩原村の休暇村から白布峠山頂駐車場まで、全16km、標高差580mのコースを走るタイムトライアルレースで、嘉瀬さんは、コースを50分以内で完走できる選手がエントリーするアスリートクラス（同クラスのエントリー数は31名、大会全体では571名がエントリー）に出場し、見事優勝を飾りました。

嘉瀬さん（群馬県出身）は、山形大学ではトライアスロン部、自転車競技部に所属しています。競技として本格的にロードバイクに乗り始めたのは、大学1年生からで、4年生まではトライアスロン競技をメインに取り組んできました。大学院入学を機に今年から自転車のロードレースに絞って活動中で、福島県に拠点を置く実業団チーム「Link TOHOKU」に加入して、JBCF 全日本実業団自転車競技連盟主催のレースにも参加しています。大学院では、物質化学工学専攻で化学工学の研究を行っており、企業との共同研究テーマにも取り組むなど研究の傍ら、早朝などに時間をみつけて練習に励んでいます。

【第13回裏磐梯スカイバレーヒルクライム大会概要】 <https://www.urabandai-inf.com/hillclimb/>

開催日：平成30年（2018年）9月9日（日）

大会コース：福島県北塩原村 休暇村裏磐梯他目的広場前スタート（標高820m）

～ 白布峠山頂駐車場フィニッシュ（標高1,404m）標高差580m、全16km

主催：福島民報社、北塩原村、裏磐梯観光協会

【これまでの成績】

2015年度

榛名山ヒルクライム in 高崎(年代別クラス)優勝
まえばし赤城山ヒルクライム(年代別クラス)優勝
枝折峠ヒルクライム(年代別クラス)優勝
裏磐梯スカイバレーヒルクライム(年代別クラス)優勝
あづまデュアスロン in 福島(エイジの部)優勝

2016年度

日本の蔵王ヒルクライム・エコ(チャンピオンクラス)優勝
榛名山ヒルクライム in 高崎(エキスパートクラス)優勝
みなと酒田おしんレース総合2位(山形県選手権大会優勝)
東北学生トライアスロン選手権2位
長井トライアスロン(レギュラーの部)優勝
日本学生トライアスロン選手権バイクラップ1位(総合77位)
希望郷いわて国体出場(トライアスロン競技)

2017年度

栗駒ヒルクライム春ステージ(エキスパートクラス)優勝
日本の蔵王ヒルクライム・エコ(チャンピオンクラス)優勝
東京ヒルクライム NARIKI ステージ 7位
Mt.富士ヒルクライム(主催者選抜クラス) 6位
長井トライアスロン(レギュラーの部) 2位

2018年度

JBCF 修善寺ロードレース Day1(E3) 優勝
JBCF 修善寺ロードレース Day2(E2) 7位
JBCF 伊吹山ヒルクライム(E2) 優勝
榛名山ヒルクライム in 高崎(エキスパートクラス) 7位
JBCF 3day's Road 熊野 総合 4位
Mt.富士ヒルクライム(主催者選抜クラス) 15位
マウンテンサイクリング in 乗鞍(チャンピオンクラス) 4位
裏磐梯スカイバレーヒルクライム(アスリートクラス) 優勝

平成30年（2018年）10月4日

実践！大学祭で新鮮野菜の直接販売“舟形マルシェ” ～舟形町のために山大生ができること～

【本件のポイント】

- 10月20日(土)、10月21日(日)の2日間開催される大学祭で、“舟形マルシェ”として学生たちが舟形町で体験したことのPRや、舟形町で自分たちが育て、収穫した野菜の販売を行います。
- 舟形町や、フィールドワークの受け入れ先である堀内ファームの取り組みも紹介し、消費者が安全でおいしい農作物を購入できる仕組みや、舟形町のおいしい野菜を知ってもらいたいと考えています。
- 売上金は平成30年度夏季豪雨災害で被災した舟形町に全額寄付します。



【概要】

山形大学の集中講義で舟形町での農業体験をした学生有志 10 人が、10月20日(土)、10月21日(日)の2日間開催される大学祭で、“舟形マルシェ”として舟形町で体験したことのPRや、舟形町で学生たち自らが育て、収穫した野菜の販売を行います。

授業では、2回舟形町を訪れて農業を体験し、農村の特色を学びました。学生たちはそこで感じた2つの課題（農村に関心がある人が少ないこと、販売の仕組み）の解決に向けて、山形大学の学校祭である八峰祭で舟形町で自ら育てた野菜を直接販売することを企画しました。また、舟形町の農業についてなどまとめたポスターを模擬店前に掲示し、リーフレットも配布します。さらに、その売上は平成30年度夏季豪雨災害で被災した舟形町に全額寄付します。

【背景】

山形大学では、最上地域の8市町村をそのまま教育のフィールドとする「フィールドワーク 共生の森がみ※」を集中講義で開講しています。そのプログラムの一つ、舟形町で実施した「里地里山の再生I」では、舟形町の堀内地域で結成された「堀内ファーム」の方々のご協力のもと、舟形町や日本の多くの農村が抱える現状、課題について学びました。学生たちは、大学構内で授業を受けただけでは知ることのできない、現場の方々のリアルな声を聞き、課題を解決するために、自分たちにできる具体的な取り組みはないかと考えました。

また、これらの活動を計画中に平成30年度夏季豪雨災害が起こり、舟形町を訪れた際には、土砂崩れの被害を目の当たりにしました。現地の方々の復旧作業が大変だという声も聞こえてきました。そこで、売上金を舟形町へ寄付することを決めました。

【舟形マルシェ】

山形大学の集中講義で舟形町での農業体験を希望した10人が集まり、授業で2回舟形町を訪れて農業を体験し、農村の特色を知るとともに、大きく2つの課題を感じました。1つは農村に関心がある人が少ないことです。班員は農業に関心を持って集中講義に参加し、今回さらに理解が深まりました。しかし、そのように農業を身近に感じる機会がなければ、ほとんどの人が関心を持つ機会もありません。2つ目に販売の仕組みについてです。現地の方々にお話を聞き、仲介業者を通して野菜を販売することが多いと学びました。しかし、それよりも直接販売を行った方が農家の利益は増え消費者は安く買うことができ、何よりも直接顔を合わせて販売することで信頼関係を築く

ことができる、と教えていただきました。そこで、このような課題を少しでも解決に導くため、山形大学の学校祭である八峰祭で舟形町で自ら育てた野菜を直接販売することにしました。そのために8月、9月にわたって班員(述べ14名)が舟形町に行き、野菜の苗を定植し、栽培の手伝いをしてきました。また、舟形町の農業についてのポスターを模擬店前に掲示し、リーフレットも配布します。その売り上げは平成30年度夏季豪雨災害で被災した舟形町に全額寄付します。

開催日時：10月20日(土)、10月21日(日) 10:00~16:30

場 所：山形大学小白川キャンパス

販売内容：白菜、大根、里芋、キャベツ、かぼちゃ、じゃがいも、コリンキー（生食できるかぼちゃの一種）
他、これらの野菜を使った芋煮やフライドポテトも販売します。

【今後の展望】

八峰祭終了後も、小白川キャンパス内にポスターとリーフレットを掲示します。また、来年のフィールドワーク参加者にこの活動を引き継いでもらうために、大学2年次からもフィールドワークサポーターとして活動したいと考えています。

今回の活動を通して、消費者と農家が直接販売でつながりを持ち、安全でおいしい野菜を購入できるというメリットを感じてもらい、舟形町が経営面で安定するための第一歩となってほしいと思います。そして、山形大学の学生をはじめとした多くの方に野菜を通して舟形町を知ってもらい、舟形町の魅力や、農村の現状についても関心を持っていただきたいです。

【メンバー】

◎手塚 友輝（農学部1年）、阿部 樹（理学部1年）、生田 聡（農学部1年）、岡田 幸樹（農学部1年）、
叶内 芽衣（農学部1年）、斎藤 梨沙（工学部1年）、嶋田 葵（人文社会科学部1年）、
庄司 森（農学部1年）、田中 まこ（農学部1年）、松澤 智佳子（工学部1年）

※参考「フィールドワーク 共生の森もがみ」<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/yam/index.html>

山形大学では、平成17年4月から、学生の主体的学びと最上地域の活性化を目的として、最上広域圏の8市町村をそのまま山形大学のキャンパスとして活動を展開する「エリアキャンパスもがみ」をスタートし、学生たちは毎年もがみでの活動を通して多くのことを学んでいます。

「フィールドワーク-共生の森もがみ」は、地域固有の本物の自然や地域に根ざした歴史・文化を活用して、「環境」と「人」とが共生した生活ができる理想的な地域社会の実現を目標としている最上広域圏を、学生に直に感じてもらうために企画された授業です。受け入れ側の市町村に、地域の特色を現すプログラムを提供いただき、現地講師の指導の下、平成30年度は25のプログラムを展開しています。

お問い合わせ

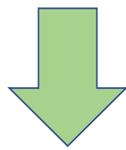
学術研究院 講師 阿部 宇洋（基盤共通教育担当／歴史民俗資料学）

TEL 023-628-4068 メール taka.abe@cc.yamagata-u.ac.jp

舟形マルシェ

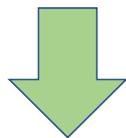
山形大学 1年 生田聡 手塚友輝
阿部樹 岡田幸樹 叶内芽衣
斎藤梨沙 嶋田葵 庄司森
田中まこ 松澤智佳子

授業で集まった10人が舟形町へ



舟形町の課題を発見

- ①農村への関心が低い
- ②経営面が不安定



課題解決



舟形町においての 活動内容

集中講義期間と夏休みで**6回**舟形町へ

白菜

キャベツ

かぼちゃ

じゃがいも

なんぼん

なす

きゅうり

コリンキー

里芋



八峰祭での 取り組み

八峰祭：10月20日(土) 10月21日(日) 10：00～16：30

舟形町産の野菜を販売

- 目的①** 里地里山の重要性をより多くの人に知ってもらう
- 目的②** 消費者が農家と直接繋がりをもち、適切な価格で野菜を購入することのメリットを伝える

内容

①舟形町の野菜を販売

白菜 大根 里芋
キャベツ かぼちゃ
じゃがいも コリンキー



②舟形町の野菜を使った料理

芋煮
フライドポテト



③ポスター掲示

農業や農村についてを簡単に説明する

④リーフレットを配布

フィールドワークの活動内容や、その体験の中で私たちが感じたこと、考えたことを記載する。

また、舟形町の農業を知ってもらうために直接販売についての内容も盛り込む。

目標枚数：1000枚

⑤売上は全額寄付

平成30年夏季豪雨災害で被災した舟形町へ売上金を全額寄付する

八峰祭後の 展望

イベント終了後

現状発信していくために活動を計画

- ①消費者と農家を繋げて、関心を持ってもらう
- ②ポスターやチラシ大学に掲示する

平成30年（2018年）10月4日

学生がキラリと光る地域企業の魅力を取材・発信

～山形県村山地域の製造業の魅力を伝えるFacebook発信プロジェクト第2弾～

【本件のポイント】

- 山形大学の学生が山形県村山地域のキラリと光るモノづくり企業30社を取材し、Facebookを通じて情報発信します
- 本日10月4日から、学生がまとめた取材記事をFacebookに掲載開始します
- Facebookをきっかけに地域の企業の魅力を知り、さらに情報を共有してもらうことで若者の地域定着につながることを期待しています

鈴木製作所（山形市）への取材



【概要】

人文社会科学部やまがた地域社会研究所は山形県村山総合支庁から委託を受け、昨年度に引き続き、学生の視点から山形県村山地域のモノづくり企業のもつ魅力をFacebookで発信する取り組みを行っています。

独自の優れた技術や製品をもつ企業が山形にあることをもっと知ってもらいたい！という思いから、人文社会科学部・工学部・理学部および大学院の学生約40名が分担して企業30社に訪問し、取材を行いました。経営者や若手従業員へのインタビューを行い、モノづくりの様子を見たうえで、現場で見て、聞いて、感じたことを学生自身が記事にまとめ、山形のモノづくり企業30社の魅力を伝えます。

取材記事は本日（10月4日）からFacebookに掲載を開始し、1月末にかけて順次掲載していきます。

【プロジェクトの背景】

山形県村山地域には全国に誇れる独自の優れた技術や製品を持つ企業が数多く立地していますが、大学生や高校生にはまだまだ知られておらず、地域への定着に結びつきにくいという現状があります。そこで地域企業の魅力を知ってもらい、就職への関心を高め、さらには若者の地域定着につなげていきたいという思いから、若者にとって身近なSNSを活用した情報発信を行うことにしました。

【平成29年度の成果】

本プロジェクトは平成29年度からスタートしました。平成29年は人文社会科学部を中心とした学生30人が28社を取材し、合計160本の記事を作成してFacebookで配信しました。

昨年度3月末時点でのページごとの閲覧数の合計は20,462回に達しました。また、村山管内の高校へFacebookの記事を保存したCDを配布し、高校生のキャリア教育や進路指導などにも役立てられることを期待しています。

取材した学生からは、中小企業であっても技術力の高さで世界を相手に挑戦している姿や、中小企業の持つポテンシャルの高さに意外性を感じたとの感想があり、地域企業の持つ魅力を知ってもらうことの必要性を改めて確認しました。



【平成30年度の取り組み】

平成30年度は質・量ともにプロジェクトのパワーアップを目指しています。取材企業数、参加学生数を増加させるとともに、新しく始めた取り組みは以下のとおりです。

- ①人文社会科学部に加え、工学部、理学部、理工学研究科の学生による文理融合の視点からの取材
- ②経営陣だけでなく若手従業員へのインタビューを加えて、企業のすがたを多面的に伝える
- ③近年、若者に関心の高い「ワークライフ・バランス」に関する記事の充実

8月下旬から9月下旬にかけて、人文社会科学部、工学部、理学部、社会文化システム研究科、理工学研究科の学生約40名が分担して村山地域のモノづくり企業取材してきました。取材先は30社（昨年度からの継続18社、新規12社）に及び、食品、家具、繊維、機械・金属・印刷など多岐に渡ります（取材企業は別紙のとおり）。

学生が五感で感じた企業の魅力をできるだけわかりやすく紹介した記事を作成し、本日（10月4日）から下記Facebookページに掲載を開始します。順次、新しい記事を掲載していく予定ですので、ぜひご覧ください。

Facebook ページ「キラリと光る！山形県村山地域の企業」

<https://www.facebook.com/キラリと光る山形県村山地域の企業-178581976017006/>
（“キラリと光る山形”で検索すると出てきます）

お問い合わせ

学術研究院 准教授（人文社会科学部担当） 吉原 元子

TEL 023-628-4256 メール motoko@human.kj.yamagata-u.ac.jp



「日本ナンバーワン!？」



「世界にはばたく！」

山形のおもてなし企業は見てもみませんか!



「あの製品、実は山形生まれ！」



「地元で働きたい先輩が選んだのは・・・」



山形大学の学生がキラリ★と光る企業を取材
山形県内企業の魅力や技術を発信しています
山形県村山地域のモノづくり企業の魅力をFacebookで発見しよう!



キラリと光る! 山形県村山地域の企業
<https://www.facebook.com/キラリと光る山形県村山地域の企業-178581976017006/>



キラリと光る山形

検索



Twitterアカウント@ShiningYamagata でも事業の様子を配信中

山形県村山総合支庁産業経済部地域産業経済課 TEL 023-621-8443
受託：山形大学人文社会科学部やまがた地域社会研究所



Facebook掲載の企業

平成30年度 山形県村山管内で学生が取材した製造業



<山形市>

川西精密 (株)
(株) 柴田製作所
(株) シベール
(株) 鈴木製作所
スズキハイテック (株)
テクノクーツ (株)
(株) でん六
(株) ハッピージャパン
ミドリオートレザー (株)

<寒河江市>

(株) スガサワ
日東ベスト (株)
(株) マイスター

<天童市>

エムテックスマツムラ (株)
(株) 管製作所
出羽桜酒造 (株)
(株) 天童木工

<上山市>

進和ラベル印刷 (株)

<村山市>

(株) コヤマ

<東根市>

アイジー工業 (株)

神町電子 (株)

(株) ナガオカ

明立工業 (株)

山形カシオ (株)

(株) 山本製作所

<尾花沢市>

オプテックス工業 (株)

(株) 最上世紀

<山辺町>

米富繊維 (株)

<河北町>

(株) I B U K I

<朝日町>

(株) 朝日相扶製作所

(株) ニクニアサヒ

(順不同)



平成29年度に取材した企業

<山形市>

(株) 伊藤熱処理
川西精密 (株)
(株) 柴田製作所
(株) シベール
(株) 鈴木製作所
スズキハイテック (株)
(株) 高橋型精
(株) でん六
(株) ハッピージャパン
ミクロン精密 (株)

<寒河江市>

後藤電子 (株)
佐藤繊維 (株)
(株) スガサワ
日東ベスト (株)
(株) マイスター
<天童市>
齋藤マシン工業 (株)
(株) 天童木工

<上山市>

(株) 片桐製作所
ジャスト (株)
<村山市>
(株) エツキ
<東根市>
アイジー工業 (株)
(株) ナガオカ
(株) 山本製作所
<尾花沢市>
(株) 最上世紀

<山辺町>

オリエンタルカーペット (株)
米富繊維 (株)
<河北町>
(株) I B U K I
<朝日町>
(株) 朝日相扶製作所

(順不同)

平成30年10月4日
山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 「理科マイスター」教育プログラム（講座）を実施します

山形大学は、文部科学省「平成30年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」に採択されました。この事業の一部として、県内の小中学校の理科教員や教員を目指す学生に対して、小学校理科の授業力を向上させるプログラムを実施します。

日程：平成30年10月14日（日）～平成31年1月12日（土）、全9回

場所：山形大学小白川キャンパス、山形市総合学習センター

2. 「西洋なしフェスティバル」を小白川キャンパスで初開催 ～上山市の果樹ブランド活性化目指し 理学部とコラボ～

理学部と上山市の共同研究がきっかけとなり、企画されたイベントで、試食会やゆるキャラのデザインコンテスト等が予定されています。

日時：平成30年10月20日（土）13:00～16:00

場所：小白川キャンパス内理学部棟中庭

3. チェリスト・指揮者の鈴木秀美氏による学生の公開レッスンを行います ～山形大学と山形交響楽団の連携による音楽教育推進事業～

昨年から実施している山形交響楽団との連携による音楽教育推進事業で、今回で5回目。チェリスト・指揮者として活躍する鈴木秀美氏を講師としてお迎えします。

日時：平成30年11月13日（火） 18:30開演

場所：文翔館議場ホール

4. フードリテラシーシンポジウム第2弾を開催します ～11月17日（土）「世界の食育の先進事例に学ぶ」～

大森桂教授が中心となり、昨年度から、国内の大学としては初めてフードリテラシーの育成に関する国際的研究を実施しています。その取り組みの一環としてシンポジウムの第2弾を開催します。

日時：平成30年11月17日（土）13:00～17:45

場所：小白川キャンパス基盤教育1号館1階112教室

5. 「数理科学」をテーマに公開講座を開催します

理学部では「数理科学への誘い」と題して、数理科学の研究者が最先端の研究を紹介する公開講座を開催します。

日時：平成30年10月27日（土）・28日（日）13:00～15:50

場所：山形大学理学部

対象：一般・大学生・高校生 100名（先着順）

6. 農学紹介講座「農学の夕べ」を開催します

農学を広くみなさんに知っていただくため講座を企画しました。事前申込は不要です。

日時：平成30年10月25日（木）～12月6日（木） 18：00～19：30

全9回

場所：山形大学農学部3号館102講義室

受講料：無料（事前申込不要）

7. 「山形大学SCITA(サイタ)センター10周年記念行事」を開催

平成20年7月に設置されたSCITAセンターは開設10周年を迎えました。このたび記念行事を開催します。申込不要、参加無料です。

日時：平成30年10月20日（土） 13：30～16：30

場所：山形大学小白川キャンパス基盤教育棟1号館

8. やまがた夜話の開催について

大学コンソーシアムやまがたでは、それぞれの得意分野で活躍している第一人者の方からお話ししていただく「やまがた夜話」を開催しています。11月は「日本人は風景をどう描いてきたかー文学と絵画から」をテーマに4回にわたって開催します。

※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

◎サイエンスリンク in 山形2018

大学生と高校生が企画した科学体験イベントを開催します。

日時：平成30年10月13日（土） 10：00～17：00

場所：山形大学小白川キャンパス体育館

参加無料・事前申込不要

平成30年（2018年）10月 4日

「理科マイスター」教育プログラム（講座）を実施します

【本件のポイント】

- 山形大学が、文部科学省「平成30年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」※に採択された。
- 本事業の一部として、県内の小学校・中学校（理科）教員および小学校教員免許状取得を目指す学生を対象に、小学校理科の授業力を向上させるための教育プログラム（講座）を実施することとした。
- 本事業の実施により、理科に強い小学校教員を養成する大学となることを目指す。



【概要】

山形大学は、文部科学省委託事業「平成30年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」に「『理科マイスター』資格認証制度を活用した教員の専門的資質・能力を育成するための教員養成・研修システムの構築」というテーマで採択されました。

この事業は、山形大学と山形県教育センターおよび山形市総合学習センターが協力して、小学校理科の授業の実施に必要な資質・能力を身に付けることを支援するため、新たに「理科マイスター」という独自資格を検討するというものです。その取り組みの一つとして、地域教育文化学部が主体となって、県内の小学校・中学校（理科）教員および小学校教員免許状取得を目指す学生を対象に、小学校理科の授業力を向上させるための教育プログラム（講座）を実施することとしました。

本事業の実施により、県内小学校教員の理科に関する資質・能力の向上に寄与するとともに、理科に強い小学校教員を養成する大学となることを目指します。

【講座内容】

実施日程：平成30年10月14日（日）～平成31年1月12日（土）、全9回

各回ごとに募集定員、実施時間が異なります。

実施場所：山形大学小白川キャンパス、山形市総合学習センター

実施内容：小学校理科の授業力向上に向けた様々な活動を実施します。

- ・理科授業づくり（新学習指導要領に対応した指導計画の作成）
- ・プログラミング教育
- ・理科室の管理・運営
- ・理科授業におけるフィールドワークの活用 など

お問い合わせ

学術研究院准教授（教育学／地域教育文化学部主担当）鈴木宏昭

TEL 023-628-4427 メール hsuzuki@e.yamagata-u.ac.jp

※参考 文部科学省「平成30年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」について

事業の趣旨： 新たな知識や技術の活用により社会が加速度的に大きく変化する中、我が国が将来に向けて更に発展し、繁栄を維持していくためには、様々な分野で活躍できる質の高い人材育成が不可欠である。こうした人材育成の中核を担うのが学校教育であり、中でも教育の直接の担い手である教員の資質能力を向上させることは最も重要である。

教員が備えるべき資質能力としては、これまでも繰り返し提言されてきた不易の資質能力に加え、自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていくことのできる力や、多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力などを備えることなどが求められている。

このため、教員が自ら学び続ける強い意志を備え、これらの資質能力を教職生涯にわたって向上させていくことができるよう、大学、教育委員会、民間教育事業者等へ委託を行い、新たな教育課題に対応した教員養成改革の推進、初任・中堅等のそれぞれの段階に対応した特色ある研修改革の推進、研修の単位化・専修免許状取得プログラムの開発、民間教育事業者との連携による教員の資質能力向上等の、教員の養成・採用・研修を通じた一体的な改革に資する取組を推進するとともに、「教師の日」等の機を捉えた教職の魅力向上に資する取組を推進する。

(文部科学省 HP より)



「理科マイスター」のための 教育プログラム（講座）のご案内

概要

山形大学では、山形県教育センターや山形市総合学習センターと協力して、理科の授業力向上を目指した講座を実施します。

「これからはじまるプログラミング教育って何をすればいいの？」

「理科で野外活動をするときに注意することって何？」

みなさんのそんな疑問にお答えします。新学習指導要領対応！

理科の授業スキルのアップを目指す方大募集！

【詳しい講座の内容等については裏面にて】



主な対象

小・中学校教員（山形県内）
小学校教員を目指す大学生 など

参加費

無料

持ち物・服装

昼食（1日講習の場合）、汚れてもよい・動きやすい服装（フィールドワークの場合）

*詳細は、講座お申し込み者にメールにてご連絡いたします。

【参加申込み先】

●別紙の申込書に必要事項をご記入のうえ、10月31日（一部を除く）までにFAXまたはメールでお申し込みください。

●各講座の申込みは、先着順で、定員に達した時点で受付は終了します。

<問い合わせ先>

山形大学 地域教育文化学部

TEL：023-628-4427（担当：鈴木宏昭）

山形県教育センター

TEL：023-654-2155（担当：飛塚健史）

山形市総合学習センター

TEL：023-645-6163（担当：浅野祥子）

講座一覧・実施

一部の講座のみの受講でも問題ございません。

2018年10月14日（日）～

講座名	日程	会場（集合）	担当教員	定員(名)	講座の概要
フィールドワーク1 火山と火山噴出物	10月14日（日） 8:50～16:10	山形大学 小白川キャンパス	大友幸子（山形大学） 渡邊弘晶 （山形大学附属小学校）	20	蔵王火山の火山噴出物や火山地形を見学し、室内実験で火山岩の顕微鏡観察を行う。
理科の授業構成の理論と実践（1）*1	10月25日（木） 14:30～17:00	山形市総合学習センター	今村哲史（山形大学） 浅野祥子 （山形市総合学習センター）	16	小学校理科における授業構成の基本的な考え方を解説する。そして、プログラミング学習の事例を基に各グループで理科の授業案を試作して発表する。
理科室の整備と魚類の採集	10月27日（土） 8:50～16:10	山形大学 小白川キャンパス	加藤良一（山形大学） 飛塚健史 （山形県教育センター）	20	理科室の整備、化学薬品の安全管理、魚類の採取法、及び魚類の飼育法などを学ぶ。
顕微鏡の整備と甲殻類・水生昆虫の捕獲	11月4日（日） 8:50～16:10	山形大学 小白川キャンパス	加藤良一（山形大学） 飛塚健史 （山形県教育センター）	20	植物の栽培法、光学顕微鏡の取り扱い、ザリガニや水生昆虫の捕獲法、及びザリガニや水生昆虫の飼育法を学ぶ。
プログラミング教育の基礎	11月17日（土） 8:50～16:10	山形大学 小白川キャンパス	津留俊英（山形大学）	20	プログラミングに関する基本的な知識の習得を目指す。また、教材を使用しながらプログラミング的な思考を育む手立てを学ぶ。
フィールドワーク2 地層と堆積岩	12月1日（土） 8:50～16:10	山形大学 小白川キャンパス	大友幸子（山形大学） 渡邊弘晶 （山形大学附属小学校）	20	寒河江川流域の地層や化石の観察、最上川の河床の堆積岩礫の採集、実験室でのボーリングコア試料や堆積岩の顕微鏡観察等を行う。
理科授業研究の進め方	12月8日（土） 8:50～16:10	山形大学 小白川キャンパス	鈴木宏昭（山形大学） 飛塚健史 （山形県教育センター）	20	理科の内容構成と子どもの思考に基づく理科授業づくりを学ぶ。グループで教材研究、授業構想に取り組む。
プログラミング教育の応用*2	12月22日（土） 8:50～16:10	山形大学 小白川キャンパス	津留俊英（山形大学）	20	プログラミング教材を使用しながらプログラミングの基本的な文法について習得する。また、各種センサー応用などについて理解する。
理科の授業構成の理論と実践（2）*1	1月12日（土） 13:00～16:10	山形市総合学習センター	今村哲史（山形大学） 浅野祥子 （山形市総合学習センター）	16	理科における探究の考え方と、科学的な探究能力の育成を目指した授業構成の方法について解説する。これらを踏まえて各グループで具体的な授業案を作成し、それらについての発表と意見交換を行う。

*1：講座「理科の授業構成の理論と実践」は、10月25日（木）と1月12日（土）の2日間に分けて実施します。

*2：各自可能な限りインターネットに接続できるパソコンをご持参下さい。

講座の流れ

8:30	8:50	12:00	13:00	16:10
受付	講座（午前）	昼食休憩	講座（午後）	

* 講座実施後、提出期限までに課題をご提出いただきます。

講座受講後

すべての講座を受講された方には、平成31年3月（予定）に、「理科マイスター」（初級）を授与いたします。それぞれの講座を受講された方には、今年度末に、山形大学より講座受講証明書をお授与いたします。

平成30年（2018年）10月4日

「西洋なしフェスティバル」を小白川キャンパスで初開催 ～上山市の果樹ブランド活性化目指し 理学部とコラボ～

【本件のポイント】

- 上山市の西洋なしを紹介する「西洋なしフェスティバル」を小白川キャンパスで初めて開催します。
- 理学部担当の奥野貴士准教授（生物物理学）が上山市と進める共同研究をきっかけに、広く西洋なしの魅力を知ってもらおうと企画しました。
- 学生主体の企画として、次世代を担う品種として上山市が期待している「リーガル・レッド・コムス」を題材としたゆるキャラのデザインコンテストを行います。



【概要】

10月20日（土）に、山形大学小白川キャンパスにおいて、上山市で収穫される様々な西洋なしを広く紹介する「西洋なしフェスティバル」を初めて開催します。この企画は、理学部担当の奥野貴士准教授（生物物理学）が上山市と進めている、西洋なしの収穫適期等に関する共同研究がきっかけとなり実現したものです。当日は、様々な種類の西洋なしの試食会や、無人小型航空機（ドローン）を使用して上山市の果樹栽培の様子を収めた動画を公開するほか、研究成果の発表なども行います。

また、学生運営企画のイベントとして、上山市が次世代の西洋なし品種として期待する「リーガル・レッド・コムス」をモチーフとしたマスコットを決定します。事前にも選考されたマスコットデザインのなかから、フェスティバルの試食会参加者による人気投票を行い、マスコットを決定します。フェスティバルの最後にマスコットのデザイン投票No.1を表彰し、グランプリ作品の作者の方には賞品としてリーガル・レッド・コムスの詰め合わせをプレゼントする予定です。

【西洋なしフェスティバル】

開催日時：10月20日（土）13:00～16:00（八峰祭当日）

開催場所：山形大学小白川キャンパス内 理学部棟中庭

内容：上山市で収穫される様々な西洋なしを紹介します。

- ・西洋なし試食会
- ・無人小型航空機（ドローン）を使用して上山市の果樹栽培の様子を収めた動画の公開
- ・理学部と上山市が進める共同研究の成果発表
- ・次世代の西洋なし品種「リーガル・レッド・コムス」のマスコット決定・表彰

対象：学生および一般

【企画の背景】

上山市では高品質な西洋なしが数多く栽培されています。奥野研究室では、上山市の農業夢づくり課とラ・フランスの共同研究を行っており、研究活動を通じて、上山市の西洋なしの魅力を発信するために、理学部ホームカミングデーの企画のひとつとして実施することとしました。なお、大学祭（八峰祭）も同時に開催されていることから、対象者を限定せず、より多くの方のご来場を期待するものです。

【今後の展望】

上山市では、ラ・フランスの販売時期に、のぼり旗や横断幕といった形で西洋なしのシーズンの訪れを告げています。今後、このフェスティバルで決定したマスコットが、のぼり旗などに展開され、上山市の西洋なしの魅力を伝えるツールの一つとして広報活動に寄与することが期待されます。

お問い合わせ

学術研究院 准教授（理学部担当／生物物理学） 奥野貴士

TEL 023-628-4580 メール okuno@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

平成30年（2018年）10月4日

チェリスト・指揮者の鈴木秀美氏による学生の公開レッスンを行います ～山形大学と山形交響楽団の連携による音楽教育推進事業～

【本件のポイント】

- チェリスト・指揮者として活躍する鈴木秀美氏による公開レッスン。
- 平成29(2017)年度から実施している山形交響楽団との連携による音楽教育推進事業で、今回で5回目。（鈴木氏は昨年に続き2回目）
- 学生にとっては、世界で活躍するプロの音楽家から直接指導を受けられる絶好の機会。

【概要】



昨年度のレッスンの様子

地域教育文化学部では、平成29年度から山形交響楽団との連携による音楽教育推進事業として、山形交響楽団定期演奏会における招聘音楽家を本学に招き、地域教育文化学部音楽芸術コースおよび文化創生コースの学生への公開レッスンを実施しています。

第5回目となる今回は、チェリスト・指揮者として活躍する鈴木秀美氏を講師としてお迎えして11月13日（火）に実施します。古典派の音楽に深く精通する、同氏によるレクチャーをはさみながらの公開レッスンとなります。学生たちにとっては、世界で活躍するプロの音楽家から直接指導を受けられる絶好の機会です。地域の皆さま方とこの貴重な時間を共有するためにレッスンを公開いたします。

【開催情報】

日時 平成30年11月13日（火） 18:30 開演

会場 文翔館議場ホール

入場料 無料

プログラム

1. F.J.ハイドン チェロ協奏曲第1番ハ長調Hob.VII b1より第1楽章
Vc 佐々木 杜洋（音楽芸術コース4年 チェロ専攻生）
Pf 佐藤 南美（音楽芸術コース4年 ピアノ専攻生）
2. W.A.モーツァルト アイネ・クライネ・ナハトムジーク ト長調 KV.525より第2、3楽章
Vn.1 犬伏 亜里（山形大学客員准教授、山形交響楽団首席コンサートマスター）
Vn.2 松井 陽菜代（音楽芸術コース3年 ヴァイオリン専攻生）
Va 平山 燎（音楽芸術コース3年 ヴィオラ専攻生）
Vc 菅谷 和範（音楽芸術コース4年 チェロ専攻生）
Cb 斎藤 理沙（文化創生コース2年 コントラバス専攻）

<参考>過去の公開レッスン開催日／講師

平成29年5月11日／チェリスト・指揮者 鈴木秀美氏

平成29年9月1日／オペラ指揮者 阪 哲朗氏

平成30年6月8日／ホルン奏者・指揮者 ラデク・バボラーク氏

平成30年8月30日／オペラ指揮者 阪 哲朗氏

お問い合わせ

学術研究院教授（地域教育文化学部主担当） 渡辺 修身

TEL 023-628-4336 メール sammy@e.yamagata-u.ac.jp

山形交響楽団



山形大学

山形交響楽団
との連携による
音楽教育
推進事業

しょうへい

招聘音楽家による 公開講座

2018

山形大学では、山形交響楽団との連携による音楽教育推進事業として、
2017年度より、山形交響楽団定期演奏会の招聘音楽家による公開講座を
行っています。2018年度は、世界的なホルン奏者で指揮者のラデク・バボラーク氏、
ヨーロッパ各地の歌劇場で活躍している、指揮者の阪哲朗氏、
古典派音楽に造詣が深い、チェリスト・指揮者の鈴木秀美氏をお招きし、
地域教育文化学部の学生への公開レッスンを行います。
興味のある方は、どなたでも聴講できます。
ぜひ、会場へお越しください。

第3回

2018 6/8 FRI 18:30~

講師紹介
ラデク・バボラーク [指揮・ホルン]

全世界で喝采を浴びる現代最高峰のホルンの名手。94年、ミュンヘン国際コンクールで優勝。これまで、チェコ・フィル、ミュンヘン・フィル、ハンベルク響、ベルリン・フィルのソロ・ホルン奏者を歴任。また指揮者として、自ら設立したチェコ・シンフォニーエッタの定期シリーズも開始。15年2月、新日本フィルにてダリエールのホルン協奏曲をソリスト兼指揮者として圧倒的名演で聴衆を魅了。18年4月より山形交響楽団客演指揮者に就任。

第4回

2018 8/30 THU 18:30~

講師紹介
阪 哲朗 [指揮]

ヨーロッパ各地の歌劇場で活躍している、日本を代表するオペラ指揮者の一人。95年、ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。08/09年年末年始に、ウィーン・フォルクスオーパーで、同歌劇場のハイライトとも言える公演である「こうもり」を指揮し、大変な話題となった。これまでに、ベルリン・コミシュ・オーパー専属指揮者、山形交響楽団首席客演指揮者、レーゲンスブルク歌劇場(ドイツ・バイエルン州)音楽監督等を務めた。

第5回

2018 11/13 TUE 18:30~

講師紹介
鈴木 秀美 [指揮・チェロ]

古典派の大家。国内外で演奏活動を展開し、数多くのCDを発表。95年に日本人としては初めての、オリジナル楽器による「パッサ・無伴奏チェロ組曲全曲」を録音、平成7年度文化庁芸術作品賞を受賞。01年、オリジナル楽器で古典派を演奏するオーケストラ・リベラ・クラシカを設立。現在、東京芸術大学古楽科非常勤講師、山形交響楽団首席客演指揮者、雑司谷拝純亭終身楽長。

【曲 目】未定(決まり次第、地域教育文化学部HPへ掲載致します。) HP: <http://www.e.yamagata-u.ac.jp/>

【場 所】第3・4回: 山形大学文化ホール / 第5回: 文翔館議場ホール 《各回入場無料》

【お問い合わせ】渡辺修身研究室 TEL: 023-628-4336 Mail: sammy@e.yamagata-u.ac.jp

平成30年（2018年）10月4日

フードリテラシーシンポジウム第2弾を開催します ～11月17日（土）「世界の食育の先進事例に学ぶ」～

【本件のポイント】

- 山形大学先進的研究拠点形成支援事業（YU-COE）として、フードリテラシーの育成に関する国際的研究を国内の大学として初めて、昨年度より始動。
- 今回のシンポジウム第2弾では、アメリカにおける食育研究の第一人者による招待講演、並びに海外の先進的な食育手法を日本に取り入れて実践されているトップランナー2名による実践報告をお聞きします。
- 後半は参加型ワークショップにより、世界の先進事例を参考に、山形ならではの教育資源や産業等地域性を生かした効果的な食育の方法について、来場者と共に考えます。



招待講演者Pamela Koch氏

【概要】

YU-COE（山形大学先進的研究拠点形成支援事業）として、「フードリテラシー育成のためのカリキュラム開発に関する国際的研究」を昨年度より始動。ご好評を頂いた本年3月のキックオフイベントに引き続き、シンポジウム第2弾を11月17日（土）に小白川キャンパスで開催します。今回は海外に視野を広げ、アメリカの食育研究の第一人者による招待講演、海外の先駆的手法を日本の学校に取り入れて実践されている2人のトップランナーによる実践報告、参加型ワークショップを行い、さらに議論を深めます。参加費無料。県内の教育関係者の他、健康福祉・農業・経済等様々な分野からの多数のご参加をお待ちしています。

【背景】

日本において食育基本法が制定されて10年以上が経過し、各地で様々な食育活動が行われています。しかしながら、平成27年に総務省が公表した「食育の推進に関する政策評価」では、目標の達成度は進展が大きくないとされ、食育の効果的な進め方や適切な評価方法があらためて問われています。我々の食生活が益々多様化する昨今、食に関する能力の総体であり、人間の素養として身につけるべき資質として、「フードリテラシー」に関する議論が、欧米で盛んになりつつあります。本学では、この新しい概念に国内の大学としていち早く着目し、YU-COE（山形大学先進的研究拠点形成支援事業）の一つとして、「フードリテラシー育成のためのカリキュラム開発に関する国際的研究」を昨年度より始動しました。本年3月には、初年度のキックオフイベントとして、国内の有識者を招き、これからの時代に求められるフードリテラシーについて様々な視点から話題提供をして頂きました。来場者からは、「どれも新鮮で、自分の今までの知識で想像していたものを超える内容だった」等、多数の好評を得ました。

【本シンポジウムの内容】

2年目となる今年のシンポジウムは、さらに世界に視野を広げ、第一部は海外からの招待講演、第二部は海外の先進的な食育の手法を日本に取り入れた実践報告と参加型ワークショップを行います。招待講演者のKoch氏は、ニューヨークにある伝統校コロンビア大学で教鞭をとり、栄養教育行動学会副会長に就任されています。今回の招待講演では、現代社会において必要とされるフードリテラシーに対するご見解や最新の調査研究等についてお聞きします。第二部では、日本における特色ある食育のトップランナー2人から実践報告をして頂きます。堀口氏からは、カリフォルニア州で始まり、全米各地に広まっている学校菜園プロジェクトの都内公立小学校での実践例について、佐藤氏からは、フランスの味覚教育を日本の学校教育において実践されている例を多数お聞きします。後半の参加型ワークショップでは、カードを使った演習を通して、我々の日々の食行動に影響を及ぼしている要素をあらためて整理し、フードリテラシーの中身について皆で意見交換を行います。教育関係者の他、農業、経済、食文化、健康福祉等様々な分野からの多数のご参加をお待ちしています。

【申し込み方法】

参加希望の方は、11月7日（水）までに、氏名、ご所属、連絡先をご記入の上、件名を「シンポジウム申込」とし、メールまたはFaxで下記へお申込みください。参加費無料。できるだけ公共の交通機関をご利用下さい。やむを得ない場合は、駐車場希望と申込時にお伝え下さい。

<日時・会場>11月17日（土）13:00～17:45 小白川キャンパス基盤教育1号館1階112教室

<招聘講師>

Pamela Koch氏（コロンビア大学ティーチャーズカレッジ准教授）

堀口博子氏（エディブル・スクールヤード・ジャパン代表）

佐藤雅子氏（成田市立公津の杜小学校主幹教諭）

<本学から>

研究代表者：大森桂（学術研究院教授・地域教育文化学部副学部長）

【追加情報】翌18日（日）には、ポストシンポジウムイベントとして、オプションツアー「鶴岡の食文化を学ぶ体験学習会」を企画しています。貸し切りバスで鶴岡の焼き畑を訪れ、今が旬のかぶについて、目で舌で体験的に学びます。別途参加費が必要です。詳細は以下にお問い合わせ下さい。

（お問合せ先）

学術研究院 教授（食教育学／地域教育文化学部主担当）

大森桂 Tel&Fax: 023-628-4353

Email: omorik@e.yamagata-u.ac.jp

2018年
11月17日(土)
参加費無料

フードリテラシーシンポジウム第二弾 「世界の食育の先進事例に学ぶ」

山形大学小白川キャンパス (山形市小白川町1-4-12)
基盤教育1号館1階 112教室

12:30 受付

13:00～第一部 招待講演 (通訳付き)

Pamela Koch氏(コロンビア大学ティーチャーズカレッジ准教授、栄養教育行動学会副会長、Tisch Food Center Executive Director)

アメリカの大学において、多面的な視点から栄養教育について具体的に教授されているKoch先生をお招きし、食行動の変容を促す栄養教育の最近の動向、フードリテラシーの捉え方等についてお聞きします。

14:40 ～第二部 実践から学ぶ

1)堀口博子氏(エディブル・スクールヤード・ジャパン代表)

アメリカ各地で広まっている学校菜園プロジェクトを一早く日本に取り入れ、都内の公立小学校で実践されている様子をお聞きします。

2)佐藤雅子氏(成田市立公津の杜小学校主幹教諭)

フランスの味覚教育について、始祖のジャック・ピュイゼ氏より直接学び、千葉県内の小学校の家庭科等で実践されている様子をお聞きします。

3)ワークショップ:食育を通して子ども達に身につけて欲しいリテラシーとは?

私たちの日々の食行動に影響を及ぼしている要素をあらためて整理し、フードリテラシーの中身について様々な視点から考えてみましょう。

17:45 閉会

18:30～ 懇親会 ホテルメトロポリタン山形にて (会費制 ¥5,000)

申し込み方法



11月7日(水)までに、氏名、ご所属、連絡先をご記入の上、件名を「シンポジウム申込」とし、メールまたはFaxで下記へお申し込み下さい。できるだけ公共の交通機関をご利用頂き、やむを得ない場合は、駐車場希望と申込時にお伝え下さい。夕方からの懇親会、翌日の体験学習会への参加の希望の有無も併せてお知らせ下さい。左のQRコードを読み取り、専用画面からの申し込みも可能です。

お申し込み
問い合わせ先

山形大学地域教育文化学部 大森桂研究室

メール: omorik@e.yamagata-u.ac.jp Fax: 023-628-4353

11月18日(日) ポストシンポジウムイベント(オプション)

「鶴岡の食文化を学ぶ体験学習会」9時～17時(予定) 参加費 ¥10,000

貸し切りバスで鶴岡へ! 今が旬のかぶについて、目で舌で体験的に学びます。

主な内容:かぶの焼畑の見学、在来かぶ御膳の昼食、かぶ漬け作り

※希望者多数の場合、先着順とさせていただきます。必ず裏面をご確認の上、お申し込み下さい。

《11月18日(日)ポストシンポジウムイベント(オプションツアー)》

「鶴岡の食文化を学ぶ体験学習会」◆募集人員/43名 ◆旅行代金 お1人 ¥ 10, 000-(大人・子供同額)

【行程】 《貸切バス/鶴岡ふうどガイド同行》

JR山形駅前==自動車道=鶴岡=藤沢かぶ園場=湯田川温泉=[昼食]ますや旅館===田川・焼畑園場==
 9:00 11:00 11:20 11:30~12:30【在来かぶ御膳】 12:40 13:00
 ==温海=温海かぶ漬け体験==自動車道==JR山形駅前
 13:50 14:50 17:00

◇利用交通機関/貸切バス(山形交通)◇発着地/JR山形駅◇最少催行人員/20名◇添乗員/同行しません
 ◇食事条件/昼食1回◇募集締め切り/11月15日(満員になり次第締め切りとなります。)

【旅行条件(抜粋)】

- この旅行に参加されるお客様は当社と募集型企画旅行契約を締結することとなり契約の内容条件は記載されている条件の他ご旅行申し込み時にお渡しする旅行条件書、出発前にお渡しする最終旅行日程表・当社旅行業約款防臭型企画旅行契約の部によります。
- 旅行申し込みと契約の成立 (1) 申し込み書に所定事項をご記入の上、お1人様につき旅行代金の全額を添えてお申込みいただきます。(2) 旅行契約は契約の締結の締結を承諾し旅行代金を受領したときに成立したものとします。(3) 通信契約による旅行契約は申し込みを承諾する通知を発した時に成立します。但し e-mail 等の電子承諾通知による方法により通知する場合はその通知がお客様に到着したときに成立するものとします。旅行代金はお申し込み後、1週間以内にお支払い下さい。
- 旅行中止の場合、旅行参加人員が最少催行人員に満たない場合、当社は旅行の催行を中止する場合があります。この場合は11月14日より前に連絡させていただき旅行代金全額をお返し致します。
- 旅行代金には行程に明示された交通費、食事代、入場料、鶴岡ふうどガイド代がふくまれます。行程に記載のない交通費等の諸費及び個人的性質の諸費用は含まれません。
- 取消料：お客様の都合で旅行を取消される場合は下記の取消料を申し受けます。

	旅行開始の前日から起算してさかのぼり				出発日当日	旅行開始後・無連絡
取消日	11日前	10日~8日前	7日~2日前	前日	旅行代金の50%	旅行代金の100%
取消料	無料	旅行代金の20%	旅行代金の30%	旅行代金の40%		

- お申込みの祭、必ず「国内旅行募集型企画旅行条件書」を別途お受け取りいただき、ご確認の上、お申込み下さい。尚「国内旅行募集型企画旅行条件書」は当社ホームページ<http://www.nta.co.jp>からもご覧になれます。
- 個人情報の取り扱いについて (1) 当社にご提供いただいた個人情報について①お客様との連絡②運送機関のサービス手配、提供③旅行に関する諸手続き④当社の旅行契約上の責任において事故時の費用等を担保する保険手続に利用させていただきます。(2) 上記②③の目的達成のため、お客様の氏名、住所、電話番号を輸送機関に提供する事があります。当社は第三者からの漏えいを防止し、個人情報の確認・訂正に対応いたします。(3) 当社は法令を遵守し継続的に改善致します。
- この旅行条件は2018年9月1日、又旅行代金は2018年9月1日現在を基準としています。

■旅行企画・実施/日本旅行東北庄内支店 観光庁長官登録旅行業1890号 総業旅行業務取扱管理者 澤田 博
 〒997-0015 山形県鶴岡市末広町6-17えきまビル

◆申し込み・お問い合わせ <https://va.apollon.nta.co.jp/foodliteracy2018/>

日本旅行東北庄内支店 ☎0235-22-2238 営業時間 平日9:30~17:30土日祝日休業

総業旅行業務取扱管理者とはお客様の旅行を取扱う旅行会社・営業所に関する責任者です。この旅行契約に関し、担当者から説明にご不明な点があればご遠慮なく上記取扱い管理者にお尋ねください。

承認番号：東北18-12



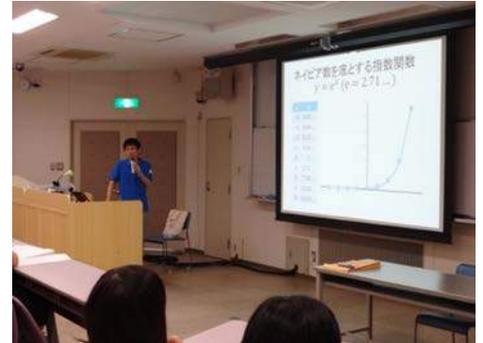
←QRコードから、ツアー申し込み専用サイトにアクセスできます。

平成30年（2018年）10月4日

「数理科学」をテーマに公開講座を開催します

【本件のポイント】

- 数理科学の研究者たちが最新の研究をわかりやすく紹介します。
- 教育研究活動の成果を発信するとともに、生涯学習の機会を提供することを目的に開催しています。



【概要】

山形大学理学部では10月27日(土)・28日(日)の2日間にわたって、公開講座「数理科学への誘い」を開催します。例年、山形大学における教育研究活動の成果を広く社会に開放し、生涯学習の機会を提供することを目的として開講している「山形大学公開講座」の取り組みの一つで、今年、理学部では「数理科学」をテーマに取り上げます。数理科学の研究者4名が、それぞれの専門分野の最先端の研究をわかりやすく紹介します。お申し込みは、ホームページの専用申込フォームからのみ受け付けます。申込期限は、10月12日(金)正午までです。

【山形大学理学部公開講座「数理科学への誘い」】

- 日時 1日目：10月27日(土) 13:00~15:50 (講演①、②)
2日目：10月28日(日) 13:00~15:30 (講演③、④)
- 対象 一般・大学生・高校生 100名(先着順)
- 会場 山形大学理学部(山形市小白川町1-4-12)
- 受講料 大学生以上：1,000円 高校生以下：500円 ※1日のみ受講の場合、半額
- 内容 講演①「フィボナッチ数列の周期」 塩見 大輔 准教授(代数的整数論)
講演②「次元の呪いについて」 原 一夫 准教授(情報学)
講演③「整数、有理数から代数的数へ」 西岡 斉治 准教授(差分代数・微分代数)
講演④「定幅曲線について」 上野 慶介 講師(微分幾何学)
- 申込 ホームページの専用申込フォームからお申し込みください。(WEBでのお申し込みのみ受付)
<https://www.sci.yamagata-u.ac.jp/news/koukai2018/>

お問い合わせ

小白川キャンパス学部総括(理学部担当)伊藤

TEL 023-628-4505 メール event@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

平成30年度山形大学農学部 農学紹介講座

農学の夕べ

平成30年
10月25日(木)～12月6日(木)

時間：18:00～19:30(全7回)

場所：山形大学農学部3号館1階102講義室
(山形県鶴岡市若葉町1-23)

受講料：無料(事前申込み不要)

現代の農学の対象は食育、有機農業、バイオテクノロジー、環境問題など非常に幅広くなっています。

そんな農学を広くみなさんに知っていただきと考え、企画しました。

事前申込は不要です。興味のあるテーマがありましたらぜひお気軽にお越しください。

「お問い合わせ先」

山形大学農学部企画広報室 TEL 0235-28-2911

◆第1回 10月25日(木)

「農業を考える2つのポイント-農産物に対する農業者と消費者の価値観、農業者の過不足」

教授 小沢 互(農業経済学)

◆第2回 11月1日(木)

「イチゴ～ちょっとイチゴ通になれる20の小ネタ～」

教授 西澤 隆(園芸学)

◆第3回 11月8日(木)

「市民協働による森づくり・環境保全の現状と課題」

准教授 菊池 俊一(流域保全・再生学)

◆第4回 11月15日(木)

「『アニマルウェルフェア』ご存知ですか？」

教授 堀口 健一(畜産学)

◆第5回 11月22日(木)

「第2回ブロッケン現象について」

客員教授 前田 直己

◆第6回 11月29日(木)

「生物のゲノム編集技術が私たちにもたらすもの」

教授 木村 直子(生殖生物学・生殖工学)

◆第7回 12月6日(木)

「農学部が向かう地域貢献」

教授 林田 光祐(学部長)

「注意事項」

当講座の様子については、写真撮影の上、各種広報誌やWeb上等に掲載することがありますので予めご了承願います。顔写真の撮影等につき特段のご要望がある場合は、担当職員にお申し出ください。

開講日	講義テーマと概要 	担当教員
<p><第1回> 10月25日(木) 102講義室</p>	<p>「農業を考える2つのポイント－農産物に対する農業者と消費者の価値観、農業者の過不足」 農産物の多くは食料となることから、生産する農業者と消費する消費者の価値観を知ることが現在の農業の状況を考える上で重要です。そして、生産の担い手の農業者が今どれくらいいるのかは食料の将来を考えるために必要不可欠です。この2つについて考えてみたいと思います。</p>	<p>教授 小沢 瓦 (農業経済学)</p>
<p><第2回> 11月1日(木) 102講義室</p>	<p>「イチゴ ～ちよっとイチゴ通になれる20の小ネタ～」 魅惑的な赤い色と甘く適度な酸味のあるイチゴは、最も人気のある果物の一つです。でも、現在私達が食べているイチゴがいつどこで最初に作られたの知っている人は余り多くありません。また、現在イチゴは寒冷地から熱帯地域に至るまで世界中で栽培されていますが、どの国が最も多くイチゴを栽培しているのでしょうか？さらに、日本におけるイチゴの栽培技術は世界でもトップクラスと言われますが、日本のイチゴの生産性も世界でトップクラスなのでしょうか？こうした点についてデータを基に考えて行くと、意外な一面が見えてきます。本講義ではイチゴの栽培を通して世界と日本の園芸生産について考えて行こうと思います。</p>	<p>教授 西澤 隆 (園芸学)</p>
<p><第3回> 11月8日(木) 102講義室</p>	<p>「市民協働による森づくり・環境保全の現状と課題」 自然環境の劣化を背景に、各地では多様な主体の協働による森づくりや自然環境の保全活動が進められています。それらの事例を紹介しつつ、市民活動の成果、活動の抱える課題、主体の役割分担、活動の先にみえること等をご紹介します。</p>	<p>准教授 菊池 俊一 (流域保全・再生学)</p>
<p><第4回> 11月15日(木) 102講義室</p>	<p>「『アニマルウェルフェア』 ご存じですか？」 ウシ、ブタ、ニワトリなどの家畜の生産現場において、アニマルウェルフェアの考え方はとても大切です。私たちは畜産物によりバラエティに富んだ食生活を楽しんでいます。家畜が畜産物を生産しているのですから、家畜に優しい飼育環境への配慮が必要です。本講義を通じて、アニマルウェルフェアについて、皆さんに知ってもらい、皆さんと一緒に考えたいと思います。</p>	<p>教授 堀口 健一 (畜産学)</p>
<p><第5回> 11月22日(木) 102講義室</p>	<p>「第2回ブロッケン現象について」 世界で最初にブロッケン現象に名前をつけたのは、出羽三山の修験者だった？！俳人・松尾芭蕉が奥の細道で出羽三山に修行に入った際の門人、曾良の随行日記に着目し、山岳信仰と歴史について昨年度に引き続き読み解いていきます。 ※ブロッケン現象：高山に登った際、登山者自身の影が太陽を光源にして霧や雲に映る現象。飛行機の影が雲に映ることや、影の周囲に虹のような光の輪が現れることがある。</p>	<p>客員教授 前田 直己</p>
<p><第6回> 11月29日(木) 102講義室</p>	<p>「生物のゲノム編集技術が私たちにもたらすもの」 近年、ゲノム編集技術（CRISPR/Cas9など）の革新的進歩により、生物のゲノム情報は自在に書き換え可能となり、医療・医薬品の開発、農水産物の効率的生産や付加価値、感染症対策など、様々な産業分野に応用されようとしています。今回、私たちの暮らしの中で、特に食生活におけるこれらの技術利用の在り方について考えてみませんか？</p>	<p>教授 木村 直子 (生殖生物学・生植工学)</p>
<p><第7回> 12月6日(木) 102講義室</p>	<p>「農学部が向かう地域貢献」 山形大学農学部は、昨年創立70周年を迎え、豊かな自然と文化に恵まれた庄内地域の特性を最大限に活かした教育・研究を進めてきました。現在学部をあげて取り組んでいる教育改革やプロジェクト事業を中心に、山大農学部がこの地域でどのような役割を担っていくかを紹介し、皆さんと意見交換をしたいと考えています。</p>	<p>教授 林田 光祐 (学部長)</p>

平成30年（2018年）10月 4日

「山形大学^{サイタ}SCITAセンター10周年記念行事」を開催

【本件のポイント】

- 山形大学SCITAセンターは7月に開設10周年を迎えました。10周年を記念して記念行事を開催します。
- 記念行事は、記念講演やこれまでの活動報告会、今後の理科教育を考えるパネルディスカッションなどを開催します。
- 当日は山形大学大学祭「八峰祭」の開催日となっておりますので、どなたでも講演会等に参加いただけます。



【概要】

山形大学 SCITA センターは、理科活動の普及活動を促進するための本学独自のプロジェクトである「やまがた未来科学プロジェクト」に基づいて、科学的思考能力を備えた将来の山形あるいは日本を支える人材を育成することを目的として平成20年7月に設置されました。これまで、このプロジェクトでは、クラゲ・スライム・月山・蔵王のそれぞれのマイスターを養成してきました。そしてそのマイスター達は、県内では、産業科学館・地域のイベント・モンテディオの試合前等での科学実験教室、県外では石巻や亶理町のイベントで科学振興活動を展開しており、年間約1万人に実験を楽しんでいただいています。

また、山形大学SCITAセンター学生スタッフは科学ボランティアとして、子どもたちに科学の楽しさ面白さを伝える活動を行っています。夏休みの自由研究サポートは人気のメニューです。

今回、SCITA センターの開設10周年記念事業を企画しました。石巻等と一緒に活動している NO 法人ガリレオ工房の滝川洋二氏をお招きし、ご講演いただくほか、大学や山形県の取り組みを紹介しながら、今後の活動を展望します。

【記念事業】

開催日時：平成30年10月20日（土） 13時30分～16時30分

開催場所：山形大学小白川キャンパス基盤教育棟1号館 112教室

（山形市小白川町一丁目4-12山形大学小白川キャンパス）

内 容：13:30 開会

挨拶・事業報告

14:10 記念講演

演 題：「地域から創る日本の未来」

講 師：NPO法人 ガリレオ工房 理事長 滝川 洋二 氏

15:15 教員・学生による活動事例発表およびパネルディスカッション

テーマ：「理科普及活動の課題－未来へつなぐために－」

16:30 閉会

※申込不要（直接会場にお越しください）、参加無料

お問い合わせ

山形大学SCITAセンター（棚井）

電話 023-628-4517

E-mail：scita@sci.yamagata-u.ac.jp

科学の楽しさをすべての人に



NPO法人ガリレオ工房とは
お知らせ
滝川理事長より
例会
理科読
ガリレオ工房の本
教材販売 理科バック
受賞歴
入会案内と会員の登録
通信投稿規定

ガリレオ工房ようこそ！

特定非営利活動法人（NPO法人）ガリレオ工房は、「科学の楽しさをすべての人に」伝えるための様々な取り組みを行う創造集団です。身近な材料でできる実験の開発を、毎月行っている例会で紹介し合い、年間数十の実験を工夫しています。開発した実験は会員向け通信のほか新聞や雑誌、本などで紹介しています。ガリレオ工房監修や執筆の本は現在70冊を超えました。また工夫した実験をベースにした実験教室、実験ショーにも取り組んでいます。テレビや映画などへの出演や実験監修も行っています。2005-2007年度には独立行政法人科学技術振興機構JSTからの委託研究で全国の科学ボランティアの工夫を調査する「市民による科学技術リテラシー向上維持のための基礎研究」を行いました。科学ボランティアを支援するための活動にも取り組んでいます。

おかげさまで、サークル活動開始（前身の物理教育実践検討サークル）から数えて、2017年1月の例会をもって31年目を迎えました。ありがとうございます。

理事長 滝川 洋二



滝川先生のガリレオ工房とSCITAセンター

山形大学SCITAセンターの石巻での復興支援活動において、サイエンスショーや実験ブースで協力いただいております。理科読のシンポジウムでは、ネット回線で東京でのシンポジウムを中継しています。亘理町開催されるサイエンスフェスティバルでは、SCITAセンターの学生スタッフがブースを出展している。両団体は、協力して普及活動に取り組んでいます。滝川先生が東海大学在職中は、毎年附属高校で実験教室を開催されていました。

平成30年11月

やまがた夜話

「日本人は風景をどう描いてきたか —文学と絵画から」



高橋由一「東置賜郡赤湯村新道の内字鳥上ヶ坂より米沢地方並に赤湯沼を望む図(白竜湖)(三島県令道路改修記念画帖)」
山形大学附属博物館蔵

長谷川竹葉「山形県下眼鏡橋上真景」山形大学附属博物館蔵

11月 7日(水) 「山形県内の八景めぐり —江戸後期の村おこし」

講師:藤田 洋治 氏 (山形大学・教授)

11月14日(水) 「山形十景に見る明治時代の山形市内」

講師:佐藤 琴 氏 (山形大学・准教授)

11月21日(水) 「『湘南』って何だろう? 日本人の景勝のイメージ」

講師:山本 陽史 氏 (山形大学・教授)

11月28日(水) 「山形の歌枕と文学 —和歌・俳諧・短歌を中心に」

講師:藤田 洋治 氏 (山形大学・教授)

※時間はすべて18:30~19:30です。

会場 ゆうキャンパス・ステーション
(山形むらきさわビル1階)

アクセス 山形駅東口より徒歩1分

対象 高校生・学生・一般市民

お申し込み チラシ裏面の参加申込書に
必要事項を記入の上、FAX、
郵送、メール等でお申し込
みください。

入場無料 定員:50名



主催

大学コンソーシアムやまがた

お申込み・お問合せ

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階
TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820
E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



FAX:023-628-4820

大学コンソーシアムやまがた事務局 行き

やまがた夜話に参加申込みをします。

必要事項を明記の上、FAX・郵送またはE-mailにてお申込ください。

申込締切日:それぞれの夜話前々日までにお申込をお願いいたします。

ただし、受講申込者が定員を超えた場合は、入場をお断りさせていただく場合がございます。

参加日	参加希望日に☑、又は日付を○で囲んでください。 <input type="checkbox"/> 平成30年11月 7日(水) 講師: 藤田 洋治 氏 <input type="checkbox"/> 平成30年11月14日(水) 講師: 佐藤 琴 氏 <input type="checkbox"/> 平成30年11月21日(水) 講師: 山本 陽史 氏 <input type="checkbox"/> 平成30年11月28日(水) 講師: 藤田 洋治 氏
住所	〒
氏名	
連絡先	TEL
	E-mail
所属	※必須ではありません。

※ この申込書にご記入いただいた情報は、今回の講座を受講するために必要な事務連絡等に使用すると共に、参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

【お申込み・お問合せ先】

大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階

TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820 E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp